

## 特集1 貧困と都市再生・ソウルサブセンター開設記念シンポジウム

### SPECIAL 1 "Poverty and Renewal" "Seoul Sub-center Opening Commemorative Symposium"

2009年9月17日(木)～18日(金)、ソウルサブセンター開設記念シンポジウムにあわせて、ソウル市立大学都市人文学研究所との学術交流協定の締結、大韓住宅公社住宅都市研究院(HURI)共同学術セミナーが実施された。都市研究プラザからは、教員、研究員、その他関係者合計22名が参加し、今後の研究連携の推進に向けた研究交流が図られた。

#### ■ソウルサブセンター開設記念シンポジウム

今年度(2009年度)4月に都市研究プラザソウルサブセンターが社団法人韓国都市研究所内に設置された。これを記念して、2009年9月18日(金)にソウル市所在のフランススコ教育会館2階・大会議室で都市研究プラザと韓国都市研究所の共催によるシンポジウムが開催された。都市研究プラザからは、佐々木雅幸所長、水内俊雄、岡野浩、両副所長をはじめ、全泓奎准教授、特任教員の櫻田和也のほか、都市研究プラザ博士研究員の米野史健、G-COE特別研究員の葛西リサ、本岡拓哉、稲田七海、福本拓、コルナトウスキ・ヒエラルド、全昌美、若松司、RAの平川隆啓、太紅梅、そして中山徹(都市研究プラザ特別研究員/大阪府立大学人間社会学部教授)が参加した。

ソウルサブセンターは、上海、バンコク、ジョグジャカルタ、ロサンゼルス、香港、メルボルンに続く7か所目の国際サブセンターにあたる。ソウルサブセンターが設置される韓国都市研究所は、都市貧困地域で現場活動を主に行ってきた「都市貧民研究所」と政策研究を進めてきた「韓国空間環境研究会」の研究者らを中心に1994年に設立された、純粋な民間の研究機関であり、その研究課題は都市研究プラザと関連するところが大きい。

「貧困と都市再生」と題された本シンポジウムでは、都市再生に付随する問題の実態分析だけにとどまらず、社会包摂・文化創造に向けた理念的・実践的な方策も提示された。それぞれの報告に対しては、研究者だけではなく、地域の実践に関わる活動家や市民など約50人近く集まった参加者から活発な質疑応答がなされ、報告者も新たな視点を



報告者による総合討論の様子

考えさせられる機会になったことだろう。このほか、同行していたありむら潜氏(釜ヶ崎のまち再生フォーラム)や織田隆之氏(社会福祉法人日本ヘレンケラー財団知的障害者更生施設伯太学園)らによる、都市再生を草の根的に実践する生の声が伝えられたように、研究だけにはとどまらない実践性に富んだシンポジウムになった。

このシンポジウムを通じて、歴史的背景や政治構造の違いから、韓国と日本の都市再開発をめぐる権力側から市民にかけられる圧力は、その強度と速度の面で全く異なることが認識されたものの、都市再生および都市再開発に付随する貧困や社会的排除の状況には共振するところが大きいと思われた。すなわち、研究の側面からはこうした状況を正確に描きだすとともに、社会的包摂型の都市再生への最善の道筋を模索するよう求められるのだろうが、その際、この問題に携わる日韓の研究者相互交流が重要であろう。後半部の司会者、金ウォンベ氏(国土研究院)が指摘したように、このことは欧米の理論とは全く別物の、東アジアから発信される新たな都市論の模索に連結していくものであり、都市研究プラザとしても今後は、日韓だけではなく既に設置されている香港、上海サブセンターをベースに研究者の相互交流の必要性が確認された。そして閉会にあたり、佐々木所長からは、今年度創刊予定のCCSがその重要な媒体となることが指摘された。

#### ■ソウルサブセンター開設記念ソウル貧困地域ツアー

9月19日(土)には、韓国都市研究所の研究員の案内で「ソウル貧困地域ツアー」が行われた。



再開発地区を歩く  
貧困地域ツアー  
参加者

最初の訪問地である龍山地区は、ソウル市で展開する都市再開発事業において多くの人々が心を痛めた事件が起こった場所である。立ち退きに抵抗した5名の市民の命が奪われた龍山惨事の現場では、いまでも警察官が地区を包囲しており、問題の深刻さを十分に認識することができた。続いて、一行は南九老の韓国系中国人(通称、朝鮮族)多住地区を訪問した。シンポジウムで朴世訓研究員(国土研究院)からの報告にもあったように、韓国の外国人移民問題はようやく1990年代以降に問題となっており、労働状況や居住環境など、この地区の現状を見ることで、韓国

の新たな都市社会問題の存在を予感させられた。三か所目の訪問地であるポイ洞のビニルハウス(スクォッター)では、住民代表の説明から、権力側に左右された地区の形成過程を確認し、さらには住民当事者組織による居住権運動の一端に触れることができた。そして最後に訪問した杏堂洞住民自治センターとノンコル信用協同組合(コミュニティバンク)では、コミュニティ主導による都市開発のオルタナティブが行われており、日本での社会的条件不利地域の再生にとっても非常に示唆に富む事例であったことが認識された。

#### ■ソウル市立大学都市人文学研究所と学術交流協定を締結

ソウル市立大学都市人文学研究所(<http://english.uos.ac.kr/>)との学術交流協定を締結するため、佐々木雅幸所長、水内俊雄、岡野浩、両副所長を始め都市研究プラザ関係者数名でソウル市立大学を訪問した(9月17日)。ソウル市立大学都市人文学研究所は、2007年から2017年までHumanities in Korea Projectによる研究助成を受けて、“Humanistic Vision of Globalpolis”をテーマに人文学的視点からグローバルシティについての理論研究および都市問題に関する調査を主な活動内容としている研究機関である。協定締結の席には、Lee, Seong-Paik所長を始め6人の教員と都市研究プラザ関係者が同席し、和やかな雰囲気のもとでそれぞれの研究プロジェクトにおける取り組みや今後の研究の展開について情報交換を行った。今回の協定締結により双方の大学における研究連携体制が整備され、今後は、研究成果の交換や国際セミナー等を通じて研究者の交流を積極的に推進していく予定である。



調印を交わすLee所長(左)と佐々木所長(右)

#### ■大韓住宅公社住宅都市研究院(HURI)共同学術セミナー

京畿道盆唐市に位置する大韓住宅公社住宅都市研究院(HURI, <http://huri.jugong.co.kr/eng/index.asp>)において学術セミナーが開催された(9月17日)。都市研究プラザからは稲田七海とコルナトウスキ・ヒエラルドが、それぞれ日本と香港におけるホームレス支援に関する研究報告を行い、HURIからも同研究所研究員のチェ・ウンフィ氏による韓国の居住福祉政策についての報告が行われた。それぞれの報告後は、日韓を含む東アジアにおける「居住

福祉」概念について意見交換がなされた。今回の学術セミナーを契機に、東アジアの大都市における居住福祉の推進のため、研究者どうしが緊密に連携を図りながら研究交流を活発に行い、共通認識を高めていくことの必要性を確認することができた。

■稲田七海(G-COE特別研究員)本岡拓哉(G-COE特別研究員)



大韓住宅公社における学術セミナーの様子

In April 2009, OCU-URP Sub-center was opened at Korean Center for City and Environment Research(KOCER). To commemorate this, the "Poverty and Renewal" symposium was held. At the symposium, not only were there analyses of the actual state of problems that accompany urban renewal, but also both theoretical and practical policy measures were proposed aimed at social inclusion and cultural creativity. In response to the various reports, there were vigorous questions and reactions, not only from researchers, but also from activists involved in carrying out local projects and from citizens who were among the approximately 50 participants who gathered, and it was an occasion for the presenters as well to have to consider new perspectives. Also, along with the symposium, a tour was conducted of poor localities, and participants were able to come into direct contact with the housing rights movement through the residents' organizations.

Additionally, in combination with the symposium commemorating the opening of the Seoul Sub-center, an academic exchange agreement was concluded with Seoul City University's Urban Humanities Research Institute, and a joint academic seminar was held with the Korean National Housing Corporation Housing & Urban Research Institute (HURI). 22 members from the URP participated, and research exchanges were planned for the promotion of future research link-ups.

By concluding this agreement, a liaison framework has been set up at both universities, and we plan to actively carry out research exchanges in the future.

At the Korean National Housing corporation & Urban Research Institute (HURI), an academic seminar was held on housing welfare and poverty. There are many points in common related to housing welfare problems in both Japan and Korea, and in the future we can look forward to even more advances in research exchanges as researchers simultaneously build closer liaisons.